

いろいろな場面で使える**農家の常備薬**！

育苗期後半に株元処理

- はくさい ●キャベツ ●レタス ●きゅうり
- ピーマン ●なす ●トマト※ ●ミニトマト※ など



定植時に植穴処理土壌混和

- はくさい ●キャベツ ●きゅうり ●すいか ●いちご
- ピーマン ●なす ●トマト ●ミニトマト など



鉢上時に株元処理

- トマト※
- ミニトマト※



生育期に株元散布

- ねぎ
- わけぎ ●あさつき
- きゅうり ●メロン
- なす ●トマト など

は種時に

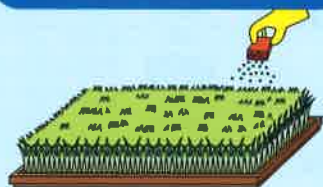
- はくさい ●ねぎ
- だいこん
- キャベツ
- ブロッコリー など

植付時に

- ばれいしょ
- かんしょ
- ねぎ など

※使用時期は「育苗期」または「育苗期後半」

育苗箱処理



水 稲

本田散布

動力散粒機など



イネミズゾウムシ



イネドロオウムシ



ウンカ類



カメムシ類



ツマグロヨコバイ



アブラムシ類



コナジラミ類



マメハモグリバエ



ミナミキイロアザミウマ



トマトハモグリバエ



ネキリムシ



ハイマダラノメイガ

生育期株元散布

- 花き類・観葉植物



アブラムシ類

アザミウマ類

株元散布

- かんきつ(苗木)



ミカンハモグリガ

ネオニコチノイド系 殺虫剤

ダントツ粒剤

いろいろな
作物に
使える!!



ダントツは住友化学(株)の登録商標

農林水産省登録 第20800号

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
はくさい	コナガ、アオムシ、アブラムシ類、ハイマダラノメイガ、ネキリムシ類 コナガ、アオムシ アブラムシ類、ハイマダラノメイガ	0.5g/株 2g/株 1～2g/株 0.25g/株	育苗期後半 定植時	いずれかの 処理で1回	株元処理 植穴処理土壌混和 覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
しゅんぎく かぶ、こまつな、ほうれんそう チンゲンサイ	アブラムシ類、ハモグリバエ類 アブラムシ類	6kg/10a	は種時	1回	播溝処理土壌混和
さきうり	アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類、コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類	1～2g/株 2g/株	育苗期後半 定植時	いずれかの 処理で1回	作業処理土壌混和 株元処理 植穴処理土壌混和
すいか	アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類	1～2g/株	定植後 ただし、収穫前日まで 定植時	3回以内 1回	株元散布 植穴処理土壌混和
メロン	コナジラミ類 アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ、トマトハモグリバエ	1～2g/株 2g/株	育苗期後半 定植時	いずれかの 処理で1回	株元処理 植穴処理土壌混和
なす	アブラムシ類 コナジラミ類 アブラムシ類、コナジラミ類、マメハモグリバエ アブラムシ類 アブラムシ類、コナジラミ類 アザミウマ類	1～2g/株 1g/株 1～2g/株 1g/株	定植後 ただし、収穫前日まで 育苗期 育苗期後半 定植時	3回以内 1回	株元散布 植穴処理土壌混和
トマト ミニトマト	アブラムシ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類、アザミウマ類	1～2g/株	定植後 ただし、収穫前日まで 育苗期後半 定植時	3回以内 1回	株元散布 株元処理 植穴処理土壌混和
ピーマン	1g/株	1g/株	定植後 ただし、収穫前日まで 育苗期後半 定植時	3回以内 1回	株元散布 株元処理 植穴処理土壌混和
いちご かぼちゃ だいこん	アブラムシ類	1～2g/株 1g/株 1～2g/株 3～6kg/10a 2g/株 0.5g/株	定植時 は種時 定植時	1回	株元散布 植穴処理土壌混和 播溝処理土壌混和 植穴処理土壌混和 株元処理
レタス	※1	0.5g/株	育苗期後半		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
非結球レタス	0.5g/株 1～2g/株	0.5g/株 1～2g/株	定植時		株元処理 植穴処理土壌混和
なばな、にがうり	アブラムシ類、ハイマダラノメイガ ネギアザミウマ	0.25g/株	は種時		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する
ブロッコリー	コナガ、アオムシ、アブラムシ類、ハイマダラノメイガ アブラムシ類 コナガ、アオムシ、ハイマダラノメイガ アブラムシ類、ハイマダラノメイガ	※1 0.5g/株 1～2g/株 2g/株 0.25g/株 3～6kg/10a 6kg/10a	育苗期後半 定植時 は種時	いずれかの 処理で1回	株元散布 植穴処理土壌混和 播溝処理土壌混和 株元散布
キャベツ	アブラムシ類、ネギアザミウマ アブラムシ類、ネギアザミウマ、コナガ、アオムシ、ハイマダラノメイガ ネキリムシ類、コナガ、アオムシ、アブラムシ類 ネギアザミウマ、ハイマダラノメイガ アブラムシ類、ハイマダラノメイガ コナガ、アオムシ	※1 0.5g/株 1～2g/株 2g/株	育苗期後半 定植時		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する 植穴処理土壌混和
セルリー はなごりー	アブラムシ類	2g/株	定植時		作業処理土壌混和 播溝処理土壌混和
ねぎ	ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、タネバエ ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ ネギ類	6kg/10a 3～6kg/10a 6kg/10a 3～6kg/10a	は種時 植付時 収穫3日前まで	1回	株元散布 植穴処理土壌混和
あさつき、わけぎ みずな らっきょう	ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ アブラムシ類 ネギアザミウマ、ネギ類 ハリガネムシ類	3～6kg/10a 6kg/10a 4～6kg/10a	は種時 収穫21日前まで 植付時	4回以内 1回 2回以内	株元散布 播溝処理土壌混和 株元散布
さとうきび	メイチュウ類、アオドウガネ カンジャコバネナガカメムシ、シロスジオサソウムシ カンジャコバネナガカメムシ、カンジャコバアブラムシ、メイチュウ類	6～9kg/10a	植付時 培土時 収穫30日前まで	1回 3回以内	植溝処理土壌混和 株元処理土壌混和 株元散布
ばれいしょ	アブラムシ類 コガネムシ類、トビロビョウタンソウムシ コガネムシ類	3～6kg/10a 6～9kg/10a	植付時 植付前	1回 いずれかの 処理で1回	植溝処理土壌混和 作業処理土壌混和 全圃処理土壌混和
かんしょ	アブラムシ類	6kg/10a 3kg/10a	育苗期 植付時	1回	株元処理 播溝処理土壌混和
れんこん	クワイクビレアブラムシ	4～6kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	湛水散布 無人航空機による散布
やまのいも じゅんさい だいず	コガネムシ類 トラフコスリカ アブラムシ類、フタスジヒメハムシ	6～9kg/10a 4kg/10a 6kg/10a	植付時 収穫前日まで は種時	1回 2回以内 1回	作業処理土壌混和 湛水散布 播溝処理土壌混和
えだまめ、あずき かんきつ(苗木)	アブラムシ類 ミカンハモグリバエ	10～20g/樹	育苗期	3回以内	株元散布
うり類(漬物用、ただし、 とうがん、食用へちまを除く) とうがん、食用へちま わい	アブラムシ類	1～2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和
きく	マメハモグリバエ、アザミウマ類	6kg/10a 1～2g/株 2g/株 6kg/10a 1～2g/株 2g/株	収穫7日前まで 発生初期	3回以内 4回以内	湛水散布 生育期株元散布
花き類・観葉植物 (きくを除く)	アブラムシ類 アザミウマ類 コガネムシ類 ミカンキジラミ コガネムシ類	6～9kg/10a 30～40g/株 6～9kg/10a 3kg/10a 3～4kg/10a	育苗期 発生初期 生育期	5回以内 6回以内 5回以内	株元散布 生育期株元散布 株元散布
樹木類(げっしつを除く)	ウンカ類、ツマグロコバエ、ニカメイチュウ カメムシ類	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
ねぎ(箱育苗)	イネミズゾウムシ、イネドロオヒムシ、イネヒメハモグリバエ	※2	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する

※1:セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4区)当り50g ※2:育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5区)1箱当り50g

⚠ 使用上の注意(抜粋)

- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - 散布は各散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - 散布にあたっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - 事前に本剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整してください。
 - 本剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該圃場周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整してください。
 - 水源地、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意してください。
- 水田の本田(3cm前後の湛水とする)及びくわい、れんこん、じゅんさいに使用する場合、田面に均一に散布し散布後4～5日間湛水状態を保ち、散布後7日間は湛水、かけ流しはしないでください。
- 畑(箱育苗)に使用する場合は次の注意を守ってください。
 - 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、そのまま田植機にかけて移植してください。
 - 軟弱徒長苗、むれ苗、移植過期を過ぎた苗などには葉害を生じるおそれがあるので注意してください。
 - 誤って過剰に使用したり、本剤使用後4日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの葉害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守してください。
 - 本田の整地が不均整な場合は葉害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後田面が露出したりしないよう注意してください。移植後は直ちに灌水し、水深2～3cm程度を保ち湛水はさけてください。

- かんきつに使用する場合は、今期に収穫の見込みのない苗木に使用し、散布後軽く散水してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはからないようにしてください。
- キャベツははくさい、かぶ、こまつな、チンゲンサイに使用する場合は、葉害が生じるおそれがあるので使用量を厳守してください。
- キャベツははくさいのは種時に使用する場合は、葉害が生じるおそれがあるので覆土後に使用し、覆土前の使用はさけてください。
- 薬剤を株単位で使用する場合には、10a当り25kgを越えないように適用の範囲内で単回使用量を調整してください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
 - 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- マルハナバチを利用する場合、本剤使用後20日目頃より後に導入してください。ただし、影響日数は環境条件により多少変動する場合がありますので注意してください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

2103SC/ZS3

